

令和5年度

第1回射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会

日時 令和5年11月10日(金)10時00分

会場 庁舎3階 302会議室

次 第

1 開 会

委員紹介

2 報告事項

(1)射水市生活支援体制整備事業の概要

(2)令和5年度生活支援体制整備における取組について【資料1】

3 協議事項

(1)地域課題「担い手確保」について【資料2】

(2)地域支え合いネットワーク事業未実施地域について

4 閉 会

参考資料

生活支援体制整備事業の概要・意義

「ささえあい かわら版」

「ささえあい かわら版」アンケート結果

射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会委員名簿

	団体名	役職	委員名
高齢者福祉に関し 識見を有する者	射水市社会福祉協議会	会長	門田 晋
	射水市老人クラブ連合会	会長	串田 伸男
	富山福祉短期大学	社会福祉学科長・教授	宮嶋 潔
地域における連携 及び支援体制の関 係者	射水市地域振興会連合会	副会長	川腰 喜久雄
	射水市民生委員児童委員協議会	理事	矢後 近
	公益社団法人射水市シルバー人材センター	事務局長	島田 治樹
	射水市ボランティア連絡協議会	副会長	皆川 道子
介護サービス提供 事業者	社会福祉法人 小杉福祉会	統括施設長	宇多 ひろみ
	社会福祉法人 射水万葉会	よるこび事業部 総合副センター長	室江 紀美代
民間企業関係者	射水商工会議所	事務局長	向田 真理
	射水市商工会	事務局長	篠田 千春
地域包括支援セン ターの代表者	新湊西地域包括支援センター	所長	新谷 千春

任期:令和7年9月30日まで

協議会 会長	宮嶋 潔
協議会 副会長	門田 晋

射水市生活支援体制整備事業の概要

地域支え合いネットワーク事業 (H28モデル、H29～)

資料I P1.2

実施地域 26地域振興会 (令和5年度当初)

目指すもの

- 1 高齢者の健康寿命を伸ばそう
- 2 要支援者の重度化を防ごう
- 3 見守りあい、助けあいができる地域を維持しよう

○事業の進め方

地域課題を考え・共有し、解決策を検討・計画する

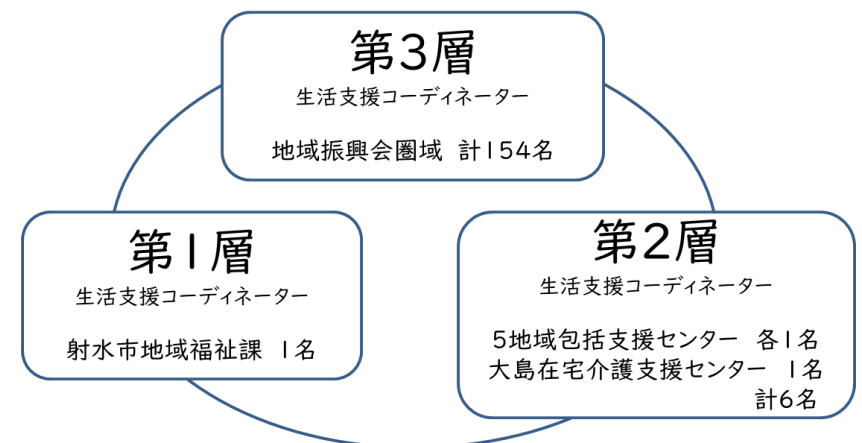
- ・支え合いを考える会 (第3層協議体) のメンバーを決める
- ・第3層生活支援コーディネーターを決める
- ・資源マップ (地域にある施設、場、組織等の地図) を作成する
- ・地域課題会議を開催する
- ・地域づくり計画表 (目指す地域像・課題・活動内容など) を作成する



課題解決のために地域でできる活動を実施する

- ・住民同士の支え合い活動 (電球交換、除雪、買い物支援等)
- ・声かけ見守り活動
- ・集いの場の開催
- ・認知症の理解促進・認知症予防 (認知症サポーター養成講座の実施等) 等

○協議体と生活支援コーディネーターの状況 (R5.10.1現在)



第1層の協議体: 射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会
第2層の協議体: みんなでつなげる地域支えあい会議

地域支え合いネットワーク共生社会構築事業

(R3～モデル、R5～)

地域支え合いネットワーク事業を基盤に実施
実施地域 1地域 (令和5年度当初)

資料I P3

実施内容

- 1 常設型の居場所の設置及び運営
- 2 相談員の選任及び配置
- 3 高齢者、障がい者、子ども等の支援を必要とする者に対する支援

地域ふれあいサロン事業

令和5年度から地域支え合いネットワーク事業へ統合
実施グループ 97グループ (令和5年度当初)

資料I P4

活動内容 (月1回以上実施)

- 1 軽運動の実施
- 2 各種講座及びレクリエーションの実施
- 3 健康チェック (血圧測定等) の実施
- 4 その他、参加者が希望する活動

「地域支え合いネットワーク事業」普及啓発の取組

「ささえあい かわら版」の発行 普及啓発動画の作成

資料I P4

人材育成 (担い手確保) の取組

第3層生活支援コーディネーター研修会 みんなで学ぼう! 地域支え合い講演会 住民サポーター研修会

資料I P5

新しい介護予防活動普及の取組

eスポーツ ボッチャ モルック 等

資料I P6

高齢者向けスマートフォン体験教室の開催 (R3.2～)

実施回数 49回 参加延人数 576人
(R5.10.1現在)

趣旨

高齢者にスマートフォンの操作を体験してもらうことで、苦手意識を解消し、円滑なコミュニケーションの促進、インターネットを活用した行政情報の取得及び健康づくり等へのスマートフォンの活用を促す。

令和5年度 生活支援体制整備事業における取組について

1 地域支え合いネットワーク事業の実施状況

令和5年10月末現在

申請年月		地域	担当包括	地域課題会議実施状況	
H 28 年度 (モデル事業)	1	H28.10月	庄西	新湊西	実施済(2回)
	2	H28.10月	七美	新湊東	実施済(2回)
	3	H28.10月	三ヶ	小杉・下	実施済(2回)
	4	H28.10月	南太閤山	小杉南	実施済(1回)
	5	H28.10月	大島	大門・大島	未実施
	6	H29.2月	下	小杉・下	実施済(4回)
H 29 年度	7	H29.4月	浅井	大門・大島	実施済(4回)
	8	H29.6月	戸破	小杉・下	実施済(2回)
	9	H29.12月	金山	小杉南	実施済(1回)
	10	H30.2月	堀岡	新湊東	実施済(2回)
H 30 年度	11	H30.4月	作道	新湊西	実施済(2回)
	12	H30.6月	中太閤山	小杉南	実施済(3回)
	13	H30.9月	放生津	新湊東	実施済(1回)
	14	H30.10月	塚原	新湊西	実施済(2回)
	15	H30.12月	新湊	新湊西	実施済(1回)
R 元 年度	16	R1.9月	水戸田	大門・大島	実施済(1回)
	17	R1.11月	黒河	小杉南	実施済(1回)
	18	R2.1月	大門	大門・大島	実施済(1回)
	19	R2.2月	池多	小杉南	実施済(2回)
	20	R2.3月	片口	新湊東	実施済(1回)
R 2 年度	21	R2.7月	本江	新湊東	実施済(1回)
	22	R2.9月	海老江	新湊東	実施済(2回)
	23	R2.9月	大江	小杉・下	実施済(1回)
	24	R3.2月	二口	大門・大島	実施済(4回)
	25	R3.3月	太閤山	小杉南	実施済(5回)
	26	R3.3月	橋下条	小杉南	実施済(1回)
未実施		櫛田	大門・大島		

[参考] 地域包括支援センター担当地域

新湊西 : 庄西、塚原、作道、新湊

新湊東 : 放生津、片口、堀岡、海老江、七美、本江

小杉・下 : 三ヶ、戸破、大江、下

小杉南 : 橋下条、金山、黒河、池多、太閤山、中太閤山、南太閤山

大門・大島 : 浅井、櫛田、水戸田、二口、大門、大島

2 地域支え合いネットワーク事業の取組紹介

太閤山地域振興会 太閤山地域支え合い福祉会

事業申請	令和3年3月
主な担い手	第3層生活支援コーディネーター 地域振興会長 コミュニティセンター長
特徴	・対象を分けた(自治会、子育て世代、高齢者、地域の各種団体)地域課題会議の開催 ・第3層生活支援コーディネーターを若い(子育て)世代を交えて構成 ・グループLINE等で担い手間の情報発信や情報共有 ・高齢者はもとより多様な地域住民を対象とした活動を検討 ・地域の障害福祉サービス等を実施する事業所との連携
定例会	毎月第2、4土曜日開催
主な活動内容	・全世帯対象ニーズアンケートの実施 ・きららか射水100体操グループの立ち上げ支援と継続支援 ・地域の外国人住民との交流会の支援 ・高齢者の見守り活動(暑気払い訪問・敬老お祝い訪問等)

二口地域振興会 二口地区支え合い協議会

事業申請	令和3年2月
主な担い手	第3層生活支援コーディネーター 地域振興会事務局長
特徴	・ふたくちきらきらネット未来会議(地域課題会議)に、地域の教育機関、社会福祉法人、医療機関、金融機関、交番、コンビニ等の関係機関からも参加を依頼し会議を重ねた。 ・地域全体で地域課題を共有することで、関係機関と協働して具体的な課題解決のための活動を実施
定例会	名称きらきらネット会議 毎月第4木曜日開催(必要に応じて随時)
主な活動内容	・全世帯対象ニーズアンケートの実施 ・地域ふれあいサロン世話人との意見交換会 ・きららか射水100歳体操ときらきらカフェの開催 ・あいさつ運動(9、11月に街頭運動実施、関係機関協働) ・きらきらメイト(ボランティア)の募集 ・学生ボランティアの募集(夏休み期間)

3 地域支え合いネットワーク共生社会構築事業の取組

(1) 趣旨

共生社会の実現に向け、国では「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」の3つの機能を一体的に実施するとしている中、本事業により地域が担う「地域づくり」を支援し、地域共生社会の構築を推進するもの。

(2) 概要

地域支え合いネットワーク事業を基盤に、更に地域の多様な人々が集い地域課題を共有するプラットフォームの創出及びその課題解決に向けた取組を推進するため、令和3年度及び4年度はモデル事業、今年度から本格実施している。

常設型の居場所づくり

地域の実情に合わせて週4日以上開設

相談員の配置

保健、医療等の専門的有資格者又は福祉に関する業務の経験者1名以上

第3層生活支援コーディネーターとの兼務を可能とする

(3) 地域の取組

七美地域において、地域住民の相談窓口機能も有する「Café いっぷく庵」を週4日間オープンしている。

今年度の新しい取組としては、これまでの「Café いっぷく庵」に加え、地域の子育て世代が中心となって「キッズサロン NANAMI」（こども食堂）をスタートし多様な地域住民の集いの場となっている。



「Café いっぷく庵」の様子



「キッズサロン NANAMI」の様子

(4) 今後について

第3次射水市総合計画実施計画においては、「共生社会構築事業」実施地域数を数値目標(KPI)として位置付け取り組むこととしており、「ユニバーサルマナー」の講演会を開催するなど、共生社会について地域住民への周知と理解を図っていく。

4 地域ふれあいサロン事業と地域支え合いネットワーク事業との連携体制の構築

(1) 背景

事業開始から7年が経過する中、事業を実施する地域からは、地域ふれあいサロン事業などの類似する地域福祉活動の整理・統合の早期実現と、事業持続における課題である人材育成と担い手不足への対応策の検討の要望があった。

(2) 概要

地域ふれあいサロン事業と地域支え合いネットワーク事業が地域において包括的な取組となるよう、地域の連携体制の構築を図るため事業を一本化した。

(3) 期待する効果

事業持続における課題である「人材育成と担い手確保」の一助となる。

「地域ふれあいサロン活動」を地域で把握し支援できる体制が構築される。

5 「地域支え合いネットワーク事業」普及啓発の取組

(1) 月刊広報紙「ささえあい かわら版」の発行

活動する26地域の第1版の発行が終了する機会に、発行の効果等を検証する目的で読者の感想を直接聞くためにアンケートを実施した。

その結果を参考に、引き続き毎月2地域ずつ発行することとし、第1版からの継続性も確保しつつ、第2版のデザインを更新した。

<参考資料> アンケート結果

第2版「ささえあい かわら版」

(2) 普及啓発動画の作成

令和4年度第1回会議での委員のご意見を参考に紙媒体である「ささえあい かわら版」との差別化を図るため、スマホを利用する世代にターゲットを絞り YouTube 等で視聴できるよう作成した。

内容は、「事業紹介編」「活動紹介編」「活動参加編」の3編構成で、いずれも射水市公式Vtuberいみず雫が事業を紹介する。

完成時には、市LINE公式アカウントでお知らせするとともに、市ホームページへの動画アップや「ささえあい かわら版」へのQRコードの掲載等で周知を図っている。

また、支え合い事業の出前講座や研修会等の会場で再生し、事業を知っていただくきっかけとしている。



普及啓発動画はこちらから

6 人材育成(担い手確保)の取組

(1) 第3層生活支援コーディネーター研修会

テーマ	地域支え合いネットワーク事業への地域振興会の関わり
日時	令和5年7月5日(水) 13:30~
会場	救急薬品市民交流プラザ
内容	講座 「夏の健康管理」 射水市保健センター
	地域の取組紹介 「太閤山の地域づくり これまでとこれから」 太閤山地域振興会長
対象	第3層生活支援コーディネーター 地域振興会長、地区社協会長 等
実績	第3層生活支援コーディネーター 62名 地域振興会長 10名 地域振興会事務局長 1名 地区社協会長 13名 コミュニティセンター長 1名 民生委員 1名 計 実人数 79名(延人数 88名)

(2) みんなで学ぼう!地域支え合い講演会の実施

テーマ	担い手不足の解決策や発想の転換方法
日時	令和5年10月14日(土) 13:30~ 令和5年10月30日(月) 13:30~
会場	クロスベイ新湊 救急薬品市民交流プラザ
内容	講演 「みんなが ^{タカラ} 資源・みんなで ^{チカラ} 支援の射水市づくり」 富山国際大学 子ども育成学部 教授 村上 満 氏
	ブースの設置 「地域の取組紹介ブース」 ・放生津地域の自主防災の取組(地域提案型市民協働事業) 「介護予防活動等に関する体験ブース」 ・レクリエーション体験(ポッチャ・モルック・サーキットすごろく) ・交通安全に関する体験(運転技能向上トレーニング機器等)
対象	地域活動に関心のある地域住民
実績	34名 95名 計129名

7 新しい介護予防活動の普及の取組

(1) eスポーツ

富山県立大学との協働による e スポーツ「窓拭きの達人」体験会の開催

概要

ゲームを楽しみながら体力低下を予防することを目的に、富山県立大学情報システム工学科鳥山研究室が開発した「窓拭きの達人」の体験会を実施

実績

集いの場 6 か所 計80名



「窓拭きの達人」体験の様子

(2) ポッチャ・モルック

10月に開催した「みんなで学ぼう!地域支え合い講演会」にて、地域おこし協力隊スポーツ推進コーディネーターとスポーツ推進員の協力により、体験会を実施



「ポッチャ」体験の様子



「モルック」体験の様子

地域課題「担い手の確保」について

現代は、就業年齢の高齢化等による影響から、地域福祉活動の様々な場面で担い手不足が課題となり、ひとりで何役も担っている方もいる中、活動の維持及び継続性の観点からも、市では地域のみなさんとも情報共有し対策を検討しています。

資料1でお示した通り、地域支え合いネットワーク事業の必要性や効果等、事業について普及啓発に努めているところであり、最近では少数ではありますが若い世代の参加も見られています。

委員の皆様には、今後の事業推進の参考にさせていただきたく、それぞれのお立場から、人材（担い手）確保のために取り組んでおられることがあれば、その内容や課題等のご記入をお願いいたします。

生活支援体制整備事業の概要・意義

法律上の定義(介護保険法第115条の45第2項第5号)

(第2項)

市町村は、介護予防・日常生活支援総合事業のほか、被保険者が要介護状態等となることを予防するとともに、要介護状態等となった場合においても、可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援するため、地域支援事業として、次に掲げる事業を行うものとする。

(第5号)

被保険者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備その他のこれらを促進する事業

地域支援事業実施要綱

2 生活支援体制整備事業(法第115条の45第2項第5号)

(1) 目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、医療、介護のサービス提供のみならず、地域住民に身近な存在である市町村が中心となって、NPO法人、民間企業、協同組合、ボランティア、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、介護サービス事業所、シルバー人材センター、老人クラブ、家政婦紹介所、商工会、民生委員等の生活支援サービスを担う事業主体と連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図って行くことを目的とする。



地域づくり

高齢者が安心して暮らし続けられる地域をつくっていく事業

「ささえあい かわら版」アンケート結果

アンケート実施期間：令和4年12月22日～令和5年2月28日

1 あなたについて教えてください。

(1)性別

	男性	女性	未記入	計
実数	87	190	17	294
割合	29.6%	64.6%	5.8%	100.0%

(2)年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
実数	0	0	5	16	33	41	114	68	2
割合	0.0%	0.0%	1.7%	5.4%	11.2%	13.9%	38.8%	23.1%	0.7%
	未記入	計							
実数	15	294							
割合	5.1%	100.0%							

(3)地域振興会別回答率

	庄西	新湊	放生津	塚原	作道	片口	堀岡	海老江	本江
実数	33	0	10	19	63	0	10	10	0
割合	11.2%	0.0%	3.4%	6.5%	21.4%	0.0%	3.4%	3.4%	0.0%
	七美	三ヶ	戸破	大江	下	橋下条	金山	黒河	池多
実数	10	11	11	0	0	10	9	15	0
割合	3.4%	3.7%	3.7%	0.0%	0.0%	3.4%	3.1%	5.1%	0.0%
	太閤山	中太閤山	南太閤山	浅井	水戸田	二口	大門	大島	未記入
実数	0	11	10	11	10	26	0	14	1
割合	0.0%	3.7%	3.4%	3.7%	3.4%	8.8%	0.0%	4.8%	0.3%

※令和5年2月28日現在「ささえあい かわら版」未発行地域：新湊、片口、大江、太閤山、大島

計
294
100.0%

2 射水市地域支え合いネットワーク事業をご存知でしたか？

	知っていた	知らなかった	未記入	計
実数	203	80	11	294
割合	69.0%	27.2%	3.7%	100.0%

3 ご自身の地域の支え合いネットワーク事業は理解できましたか？

	とても理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未記入	計
実数	56	179	26	5	28	294
割合	19.0%	60.9%	8.8%	1.7%	9.5%	100.0%

4 文字や項目の配置はいかがでしたか？

	見やすかった	見づらかった	未記入	計
実数	203	35	56	294
割合	69.0%	11.9%	19.0%	100.0%

5 文字や項目の配置について、ご意見・ご感想(変更・改善すべき点等の意見を抜粋)

- ・文字を大きくしてほしい
- ・特に裏側(ささえあい・かわら版の方)の文字が高齢者にとっては小さいかなと思いました
- ・文字数が多く小さい
- ・第3層生活支援コーディネーター、資源マップ、アセスメント、フレイル等 普段使わない言葉には説明があった方がよいと思う

6 もっと知りたいことや掲載したらいいと思う内容がありますか？(変更・改善すべき点等の意見を抜粋)

- ・活動内容の新しい実施について詳しく知りたい
- ・住民の声を載せたら良いのでは
- ・活動の内容説明が不十分でありどのように参加したらよいのか？具体的な記述が必要。ネットワーク事業が住民に理解されていないのでは？もう少し丁寧な広報が必要
- ・具体的活動を写真で
- ・活動する場所や日時をくわしくお知らせした方が良い
- ・裏面の「事業概要」「目指すもの」は毎回同じ内容なので活動事例の報告を増やして見やすくすればいいと思います
- ・活動事例をもっと掲載し、計画を実際に達成したという実感が得られると良いと思う
- ・「～ができるようになった」「～して楽しかった」など参加者の感想や前向きな気持ちの掲載があると良い
- ・支え合い活動は高齢者のためだけではないので、若い人が気にとめるような視点も盛り込めると良いかもしれません

7 今後、地域で支え合い活動に参加してみたいと思われましたか？

	思った	思わなかった	未記入	計
実数	184	57	53	294
割合	62.6%	19.4%	18.0%	100.0%